

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	放課後児童クラブの運営体制の基盤整備						掲載ページ		
							177		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	子ども家庭局
		1,378,869	千円	1,964,464	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	子育て支援課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	放課後児童クラブの全児童化に併せ、市民ニーズに応えられる運営内容を確保するため、研修会の実施、運営マニュアルの作成、開設時間の標準化や延長の推進等により、運営体制の充実を図ります。また、全児童化により、受け入れが増加する高学年児童や障害のある子どもへの対応が適切に行えるよう、指導員の資質向上を図ります。そのため、研修の充実、指導員相互の交流や情報交換、障害のある子どもなどの対応を支援するための臨床心理士等の巡回派遣を行います。			活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
活動計画	指導員の資質向上を図るための研修の充実や、臨床心理士、アドバイザーをクラブに派遣し、指導員に助言等を行います。また、各クラブの運営における工夫した取り組みを他クラブに紹介し、指導員相互の交流や情報交換を促進します。他に、開設時間の標準化にも引き続き取り組みます。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】
	18時30分以降まで開設している放課後児童クラブの割合		99.5 %	100 %	99.5 %	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	開設時間の標準化・延長をはじめ、運営の質の向上を図ることが放課後児童クラブに対する様々なニーズへの対応につながることから、活動指標として設定しました。 （最終目標と最終年度） 100%（平成26年度）						
	障害のある児童の受入		283 人	障害児の受入促進	284 人	順調 やや遅れ 遅れ	順調
研修の充実や臨床心理士等の派遣により指導員の資質の向上を図ることが、受入が増加する障害のある子どもへの適切な対応につながることから、活動指標として設定しました。 （最終目標と最終年度）							

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	指導員を対象にした研修においては、研修の受講だけでなく、受講後のフォローアップ効果を向上させるため、研修時のポイントをまとめた「研修だより」を発行しました。また、臨床心理士等の派遣も今年度で4年目を迎え、各クラブの実情に即した助言等を行うことができました。こうした取り組みの結果、障害のある子どもへの理解が進み、児童の受入が促進されていることから、活動の状況は順調としました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	障害のある子どもの受入に関しては、市に臨床心理士、アドバイザーという専門家を配置し、クラブのニーズに応じて派遣して、指導員に助言等を行うことができることから、各クラブで専門職を雇用する場合に比べて低コストで効率的な取り組みと考えています。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
指導員の資質向上を図るための研修の充実や、臨床心理士、アドバイザーによる訪問指導等に引き続き取り組みます。また、各クラブの運営における工夫した取り組みを他クラブに紹介するなど、指導員相互の情報交換を促進し、運営の質の底上げに努めます。さらに、放課後児童クラブアドバイザーをクラブだけでなく、学校にも派遣し、クラブ・学校相互の連携づくりに努めます。 また、子ども・子育て新制度に伴い、児童の集団規模を70人以下から概ね40人以下とし、指導員の配置基準を児童20人ごとに1人から概ね40人以下に2人配置することで、放課後児童クラブの充実を図ります。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	総合療育センター等の専門スタッフの派遣						掲載ページ		
							177		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		36,111	千円	34,130	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか 保育所や幼稚園、放課後児童クラブ等に「総合療育センター」や「発達障害者支援センター」から専門スタッフを派遣し、指導・助言を行うとともに、保育士等の職員研修を充実することで、障害のある子どもの特性やかかわり方の理解を促進します。	活動実績 活動実績は下記のとおりです。
活動計画	障害児保育を行う保育所及び障害児の通う学校等の職員に対し、在宅障害児(者)の療育に関する技術の指導を行います。	

活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】
	発達障害者支援センター及び地域支援室の指導実施件数	障害児保育を行う保育所及び障害児の通う学校等の職員に対し、在宅障害児(者)の療育に関する技術の指導を行うことは、保育所等の専門性向上の判断基準となることから、活動指標として掲げました。 (最終目標と最終年度)	154 件	維持	139 件	大変順調
保育所等訪問支援事業の実施件数 保育所等訪問支援は、障害児への支援に加え保育所等で障害児を担当する職員に対して障害児への関わり方の指導などを行うもので、専門性の向上へつながることから活動指標として掲げました。 (最終目標と最終年度)		183 件	増加	623 件	順調 やや遅れ 遅れ	順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析 活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	発達障害者支援センターおよび地域支援室の指導実施件数は、やや減少しているものの、保育所等訪問支援事業の実施件数が3倍以上増えていることから、順調としました。
	【経済性】 【効率性】の分析 「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	専門スタッフを派遣できる団体に委託することで、より低いコストで実施することができました。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること

保育所等訪問支援は、受給者証の所持者に対して支援を行うものであり、実績件数も増えています。依然として障害かどうかははっきりしない児童への支援も必要とされており、引き続き障害児等療育支援児事業専による専門スタッフの派遣を行っていく必要があります。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	日中一時支援事業(放課後対策)の充実						掲載ページ		
							177		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		20,920	千円	0	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価				
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	当該事業は、市内に居住する障害児を障害サービス指定事業所等において、一時的に預かり、日常生活訓練等を行うことで、障害児本人の能力及び適性に応じた日常生活または社会生活を営むことができるようにするとともに、障害児を日常的に介護している家族の負担を軽減することができます。				活動実績	放課後対策事業所については、平成24年4月から開始された公的サービス「放課後等デイサービス」事業所への移行が完了しました	
活動計画	放課後対策については、放課後対策対策事業所の放課後等デイサービス事業所への移行を働きかけ、全体的にはサービス利用要望に対応できる事業実施を行います。				(参考) 1日受入定員 放課後対策 2人 (H27.3.31現在) 放課後等デイ 620人 計 622人			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)		前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】	
	日中一時支援事業(放課後対策)の受入定員数		522 人 / 日	330 人 / 日	622 人 / 日	188.5 %	大変順調	
	本事業における受入定員数の増加により、利用待機者の減少につながるとともに、利用者の増加につながります。 (最終目標と最終年度) 330人/日 (平成26年度)							活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
(最終目標と最終年度)						順調 やや遅れ 遅れ	大変順調	

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	放課後対策(放課後デイサービスも含む)の受入定員は前年度よりも増加し、順調に事業実施が来ています。また、放課後対策事業所の放課後デイサービス事業所への移行は平成26年度末をもって完了しました。
	【経済性】 【効率性】の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	本事業は障害児の介護及び療育にノウハウを持つ障害福祉サービス事業所に委託しており、経済性・効率性は高いと考えています。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること	
※放課後等デイサービス事業所への移行により、平成26年度を持って当事業は廃止	

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	小学生ふうせんバレーボール大会						掲載ページ		
							177		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	特別な家庭を支援する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		2,250	千円	52,794 <small>(障害者スポーツ振興事業の総額。本事業はその一部)</small>	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	障害のある小学生と障害のない小学生で構成されたチームによる「小学生ふうせんバレーボール大会」を開催し、障害のある子どもの社会参加の促進及びこころのバリアフリーの推進を図ります。		活動実績	様々な機会をとらえ参加を呼びかけるとともに、開催形態を見直す等の改善を図り、参加者数の拡大を図り、「こころのバリアフリー」の推進を図りました。		
活動計画	参加者数の増加につながるよう積極的に大会参加の呼びかけを行います。						
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)		前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【活動の状況】
	大会参加者数		337人	550人	425人	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	参加者数の増加が、障害のある子どもの社会参加の促進及びこころのバリアフリーの推進につながることから指標として掲げました。 (最終目標と最終年度) 参加人数550人 (平成26年度)				77.3%		
						順調	順調
(最終目標と最終年度)					やや遅れ		
					遅れ		

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	目標には達しませんでした。実施日を平成26年度は日曜日開催に変更するなど、参加者の拡大を図った結果、昨年度より参加者が増えたことから、順調としました。
	【経済性】 【効率性】の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	大会の開催にあたっては、多くのボランティアの協力を得るなど経済的・効率的な運営に努めています。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること	
児童が参加しやすい大会開催日の継続や、新たな参加者の開拓を行い、参加チーム・参加者数の拡大を図ります。	